

M I U R A K A G E O

# 三浦景生展

— 染陶曆程 —



《鶏頭I》 700×350mm 額装 2005年

2007年 4月1日(日) ~ 6月30日(土)

ギャラートーク・2007年5月13日(日) pm.2:00~

開館時間・9時30分~17時30分(入館は17時まで) 年中無休(但し12月28日~1月1日を除く)

入館料・一般1,000円(4枚セット券3,000円)/大学生800円/高校生500円/中学生以下無料

三浦景生展開催中は「萬古の名陶」展をお休みさせていただきます。悪しからず御了承ください。

# 三浦景生展 染陶歷程

三浦景生は1916(大正5)年京都に生まれました。丸紅株式会社意匠部の戦後再建に参加して染色工芸への興味を深めた三浦は、染色家小友友之助に師事し、染色の制作に専念しました。1947(昭和22)年の京展、日展への出品が始めての作品発表ですが、染色といえば着物の絵柄という当時の社会にあって、三浦は最初から前衛的な手法でパネルや屏風に仕立てて発表し、染色の既成概念を打ち破りました。

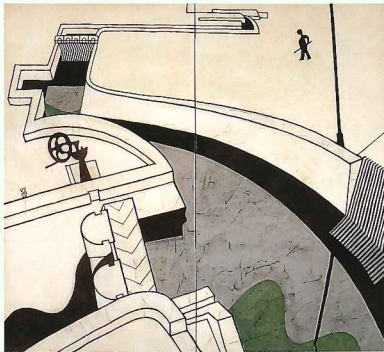
以来、日展をはじめ、あまたの展覧会で受賞を重ねながら、60年にわたって制作ひとすじに励んできましたが、1984(昭和59)年以降は、染色で培われた造形感覚をもとに、陶磁の技法をも自家葉籠中の物として、独自の繊細な色遣い、幻想的な作風で旺盛な制作活動を展開しています。

また京都市立芸術大学で後進の指導にあたり、当時学長であった梅原猛、陶芸の教授であった藤平伸とも深い親交を結び、1995(平成7)年、書、陶、染色の3人展を開催するまでに至りました。

今回は初期の作品から最新作までを一堂に展示し、三浦景生の60年に及ぶ染色と陶の世界を展望します。



《千字文》  
(6枚組)  
径160mm  
丸皿 2007年



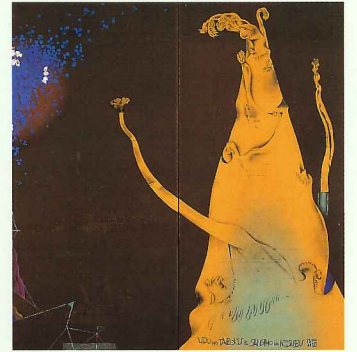
《運河》1670×1850mm 二曲屏風 1954年



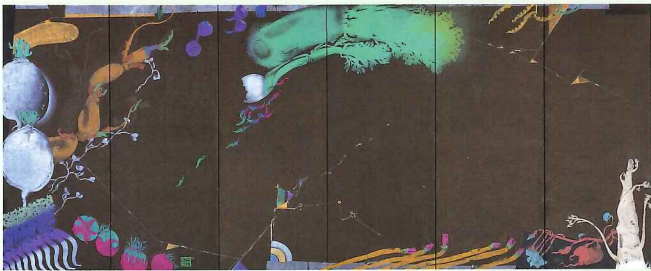
《古風な話》1680×1410mm 二曲屏風 1966年



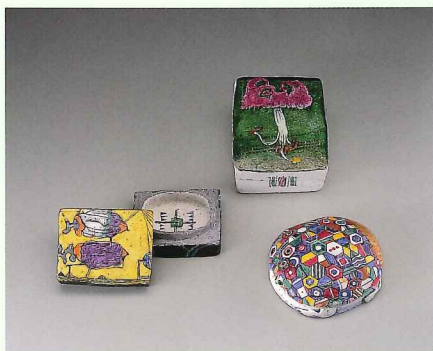
《農(牡丹)》1970×1700mm 二曲屏風 1973年



《うどのたいぼく》1520×1460mm 二曲屏風 1991年



《菜根譚》各1480×3600mm 六曲一双屏風 2007年



《亀甲文》120×110×45mm  
《百合I》115×100×50mm  
《ほし柿》70×90×45mm  
陶管 2002~2006年



《なたね》250×180mm  
陶板 2005年

## ● 略歴

- 1916年 京都生まれ
- 1959年 日展特選・北斗賞受賞
- 1984年 京都府企画・三浦景生展(京都府立文化芸術会館)
- 1991-2004年 染・清流展(京都市美術館、目黒区美術館/東京)
- 1995年 京都府文化賞特別功労賞受賞
- 1995-97年 梅原猛・藤平伸・三浦景生展(高島屋/京都・東京、松坂屋/名古屋)
- 1998年 染めの詩三浦景生展(目黒区美術館/東京)
- 1999年 芸術選奨文部大臣賞受賞
- 2000年 染・1990-2000三浦景生展(エスパスOHARA/東京)
- 2002年 夢談議三浦景生展(高島屋/京都・東京)
- 2004年 第3回円空大賞受賞(岐阜県)
- 2005-06年 世界ろう染大会 in ボストン日本のろう染展(ボストン・ワシントンDC・シアトル巡回)
- 2006年 布と土に詩う三浦景生展(奈良県立万葉文化館)  
 卒寿三浦景生展(京都・東京)

現在 京都市立芸術大学名誉教授・日展参与

paramitamuseum

財団法人岡田文化財団

問い合わせ先：パラミタミュージアム

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6

Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077

http://www.paramitamuseum.com E-mail=office@paramitamuseum.com

## 交通機関

### 【お車をご利用の場合】

東名阪四日市I.C.で降りて国道477号(湯の山街道)を湯の山方面へ約6km  
無料大駐車場あり(普通車100台、大型バス駐車場可)

### 【電車をご利用の場合】

近鉄「四日市駅」下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分  
「大羽根園駅」下車、西へ300m  
全館バリアフリー、車椅子常備

